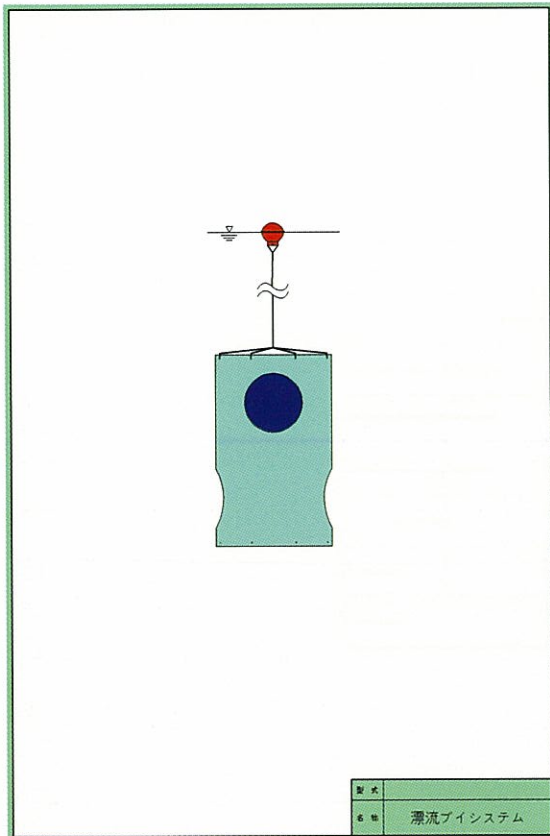


簡易型漂流ブイの開発

事業名 平成14年度提案公募型有明地域等振興対策研究開発

課題名 簡易型漂流ブイによる有明海の海水流動計測システムの開発



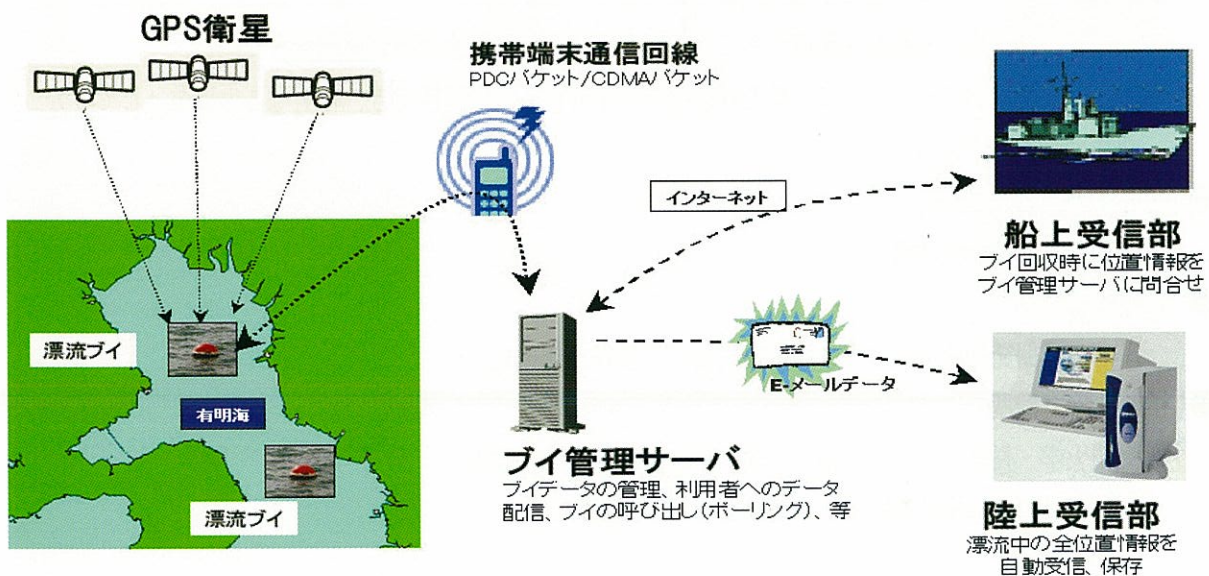
ブイ構成図



ブイ実証機



漂流軌跡結果事例



システム構成図

事業概要

●事業の背景および目的

有明海漁場は高度に利用されているにもかかわらず漁場環境、特に海水流動などに関する基礎的情報が乏しく、漁場再生化に向けた取り組みに様々な問題を投げかけている。

有明海ノリ不作問題では、そのような視点から流動特性の把握が有明海問題対応の最優先課題の一つである旨の指摘がなされた。

本事業では、それらの緊急課題に対応する一環として海水流動が把握できる簡便な測流用漂流ブイシステムを開発し、その性能、精度を現場海域で検証することを目的とし、さらに検証実験を通して得たデータから有明海の流動特性を把握するための基礎的情報を得ることとした。

●事業実施期間および内容 平成14年度

研究項目／年度月	H14/7	H14/8	H14/9	H14/10	H14/11	H14/12	H15/1	H15/2	H15/3
試作設計	————								
試作品製作		————							
夏季海上実験		○							
試作機評価			————	————					
中間報告会					○				
改良品設計					————				
改良品製作						————			
冬季海上実験							○		
最終評価							————		
報告書作成								————	
成果検討会									○

●主な成果

- (1) 海水流動と同調して移動する適切な追従性能をもった漂流ブイシステムの開発により、有明海の流動特性に関していくつかの新しい知見が得られた。
- (2) ブイから送られてくる定時位置情報を専用開発したアプリケーションソフトによって受信し、それらをデータベースとして管理するシステムが構築された。
- (3) 得られたデータを用いて所定の解析処理を行なうため、汎用的な計算、図化ソフトウェアの開発ができた。

●研究成果の応用範囲

漂流ブイによるラグランジェ式測流は、有明海に限らず日本周辺の沿岸域、内湾域で海水流動を把握する目的の多岐分野のユーザー、需要が見込まれる。

●実施組織名

株式会社ゼニライトブイ企画開発部・技術開発グループ

●指導・協力機関

熊本県立大学・長崎大学